

日本色彩学会関西支部

白の魅力で参加者の関心誘う

白色度研究や姫路城見学

日本色彩学会関西支部(森本一成支部長)は、3年目となる実践色彩講座2019「誰のための、何のための色彩学」と「もっとワクワク」のテーマで、全5回の第3回講座「姫路城の白壁から学べば修復技法と白の魅力」を11月9日に兵庫県姫路

市本町の護国会館で開き、近畿を中心に九州から東海の会員や学生、一般など40人余りが参加した。

今回の講座では、「白色度」白はカラフルを片山一郎氏(近畿大学生物理工学部准教授)が、「最新技術と古来技術と



参加者を前にあいさつする森本支部長

和の大修理」のビデオ放映があり、午後の講義の後、野崎氏の案内により姫路城を見学した。白壁の保存修復の最新技術などを知らずにより、姫路城修理技術についての理解を深めることができた。

同支部事務局を務める辻椋孝之氏は「昨年まで姫路城見学を選んだのは本部主催の6回コースで、スタジオリから新のプロジェクトマッピングなど、基礎を学ぶと同時に最新の技術に触れる機会を提供した。今年度は関西支部がこれを引き継ぎ、実施している。

は、新幹線からみる姫路城の白さが落ち着いてきた印象を持ち、当学会には白色の研究もあることから、京都工芸繊維大学のネットワークを活かし、鹿島建設へと繋が

招待講座(関西支部総会併催)に参加できるなど、受講者アンケートによる学びたい体験したいテーマも加えた参加型の企画となっている」と話した。

なお、本講座は毎年、年明けから企画を立てており、実行委員会が設定した15テーマのなかから5テーマを選んでいる。最終講座(第5回)は「より戦略的なカラーマーケティングマーケティングのヒントを掴む」をテーマに来年2月22日に開催を予定する。

また、同支部がホストとなり、色彩の研究者・デザイナー関係者が全国から集う日本色彩学会第51回全国大会(京都)が20が京都工芸繊維大学で来年6月27日・28日に開催される。新企画の情報もあり、期待が寄せられている。

また、姫路市文化コンベンションビューローからの熱心な呼びかけもあり、開催に至った」と経緯を語り、「今年度の受講者は来年4月の特別